愛珠

想い出ずるままに（二）

中村道子

（二）保育資料の調査考究整理の知識を養われた場

卒業式の翌日、知事官舎で辞令の伝達があった。私が貰った辞令に、大阪市立木津第二尋常高等小学校訓導とあったから、市内勤務になって嬉しく思った。担任教諭の注意で、学校所管の学務課と、学校長へ赴任の挨拶に行くようにいわれたので、各自別行動をとることとして一同と別れた。

私は教えられた通り、市電の大国町停留場で下車し、南方へ二丁程行った所に、学校の正門があったが、愛珠幼稚園へはじめて行ったときと、町の状況も、民家も、校舎も、構造が全部違っていた。

小使室の受付で来意を告げ、校長に取り次いで貰った。

校長に挨拶をすますと、側におられた主席訓導に紹介された。その時私は驚いた。その主席訓導は、家の先隣の吉田さんであったからである。先方も驚いたらしい。しかし、嬉しかった。私の担任は、新入児の女児であったから、入学願書一括と、諸帳簿並びに事務用品一式を貰い、次いで席も教えられた。

いよいよ四月一日職員全員が揃った時、校長から紹介された。朝会は毎日職員室で、その日の打ち合わせや報告などを簡単にするらしい。私は入学式をすませて、はじめて一年女児の受持訓導になったのである。

子どもは可愛いと思った。教室のオルガンで礼の稽古をし、マーチに合わせて手を叩きながら机の間を歩かせた。曲によく合わせる子もいたし、一生懸命に合わせようと努力している子も、ま

た合わない子もいた。一同声を出して笑った。それから四月八日には、また、この部屋に集まることを約束して帰宅させたが、私は八日から始業するが、これらの子どもらが、良い子に育ってほしいと念ぜずにはいられなかった。

一学期の終りの頃に幼稚園へ転勤する気はないかと相談があった。それは市内の独立幼稚園で、今音楽のできる人を捜しているが、なるべく貴女に来てほしいといっているが、如何でしょうかと尋ねられた。しかし自分は今指定年限中だし、二年間は動けないと思いますといった。役所も許可しないのと違いますかともいった。その学校区は中心部であり、愛珠と並んで相当園名が通っていたから、勧められ、大倉先生や周囲の先生方も、かわるがわる勧めて下さったが私には返事ができなかった。自分の将来を思って下さっているのだが——。

指定年間中の転勤には、就学期間の学資弁償が要ることは、上級生から聞いていたから、現在の私にはその力はなし、家にも余裕はなかったから、先生方の好意を無にしてしまってすまぬと思い、心中詫びたのである。

一年生の毎日の授業はおもしろく、だいいち子どもに飾り気がなくて可愛らしかった。そして子どもなりの気概をもって凛としていた。木津の区内は、木津市場はもちろん、それに続く勘助町、大国町など、電車道を挟んで西南にかけて、西浜方面の一部と、それらを繋ぐ商家であって、茶珍、徳珍、玄、鯛天、などの珍しい氏名の人もいて、古くから開けた町だと思った。

毎日の授業は、児童の身体発達に伴って、教材を進めたが、その間、機会に接するたびに、比較、判断、勇気、従順、努力、同情、感謝、心遣り、強き意志、詫びる心などの精神の育成に努めたが、子どもなりにその性情が向上していく姿を見詰めては、微笑んだ。

ちょうど三学期のはじめに、大倉先生が再び転勤の件を話された。「その後府庁の先生方が、保育に興味を持ち、その方に効果が多ければ、同じ教育に従事するのだから、転勤を認めることにしようと、許可して下さったから、今度は愈々幼稚園へ行って貰えますわ」と、いわれた。「先の幼稚園へは二年上級の日下さんに行って貰いましたが、今度は西六幼稚園です。校長が園長兼務で、主任保姆がおられますが、園舎は独立して学校との距離は、三、四丁程あると思います。この認可ができたことは貴女が最初で、先例ができたので良かったですね」と、いわれた。私は先生方のご親切に感謝したのである。

西六幼稚園は西区新町にあって、夕霧伊左衛門の話で、よく新町のことを聞いて知っている。指定年限も一年過ぎたし、校長の許可があれば、転勤してもよいと思って、父母とも相談して、許されればお願い致しましょうといった。家へ帰り一部始終を語っ

西六幼稚園における天神山と今西園長

て、後は流れの動くにまかせることにしたのである。

吉田さんと父は知己であり、西六校長と吉田さんは、同郷でしかも親友だったから、事は順序よく運び、三月三十一日付で辞令を貰ったのである。

翌日私は西六幼稚園の正門の前に立った。新町の砂場筋から、問屋橋通りまで突き抜けて、狭くて細長い園舎である。薄暗い門内から見た幼稚園は、因循な姿を見るようであった。

中庭を利用して作った十五坪ばかりの築山が、どっかと座り、鉢植の草花が、その周囲の所々に置いてある。細い竿で棚を作り葡萄の苗木も植えてあった。廊下は半間足らずの幅で、保育室の前を通り、遊戯室の横を通る廻り廊下で、それが皆濡椽の姿で、その外れが煉瓦の叩廊下へ下りていた。細長い石を踏んで廊下へ上がるのだが、大方の男児は、走って上がっていた。二十坪程の遊戯室にグランドピアノが置いてあって、毎日会集をここでする。西にも遊園があって、そこへ出るのに煉瓦で斜面を作り、これを間口にして奥行三間の砂場を作り、木煉瓦が十個と長方形の木片が二十枚足らず入っていた。子どもらはおもしろそうに汽車ごっこをして遊んでいた。

砂場を出たところに、五、六坪の低い築山があって、楠、楓、樫、槇、銀杏など五、六本植えてあったが、どれもひょろ長く弱そうな木で、その中央に小さな社が置いてあった。その昔、新町

焼の時、この辺が竹藪でその中にこの宮があったが、周囲の民家が皆焼けたが、この宮だけは残ったので、誰いうとなくそのままここへ祭ったが、その中銀行の庭になり、続いて幼稚園になったからお宮もそのままですと、私が看護当番でこの藤棚の下にいた時、古くからいる小使さんが話してくれた。

この西の銀行跡を二つに仕切って、一年保育と二年保育が使い、私は一年保育の方を担任していた。天井は高くて広く、問屋橋通りに面している所は、ずっと明取りの窓だったから、明るくてこの部屋が幼稚園の中で、一番居心地が良かった。

部屋の出入口の前が幼稚園の裏門であった。

ここから半間足らずの幅で、煉瓦の叩廊下で遊戯室の後を通り抜け、便所の前を通り、小使室の勝手口の前に出て、そのまま表の砂場筋に出たが、園の勝手口まで突き通していることは、何より便利で使いやすかった。園は全部で約三百坪程で、複雑な構築は、かつて参観した愛珠幼稚園の構えと、比較にならなかった。豁然とした所は少しもなかった。

創設は愛珠を別として、大阪では西区が他区に比べて、一番早く且つ多かったが、それは明治十一年に創設された大阪模範幼稚園の、最初の保姆になった氏原銀子先生の妹に当たる、膳たけ先生が、西区江戸堀幼稚園の主任保姆で、その頃指導の立場におられた。流石に姉さんの感化で、保育に熱心であって、主任保姆の研究会がよくあった。西六主任の志方先生は、膳先生と話もよく合ったらしく、この研究会の有様を、放課後の報告会によく話されたから、私は知らず知らずに覚えた。

ことに年若き倉橋先生は、時々この研究会にも出られて、種々助言されたり、新しい意見もいわれたそうである。大阪・京都・神戸の各保育会が連合しての研究団体である三市連合保育会の秋季大会には、倉橋先生の意見発表もあった。西区の保育界はこうした弛まない研究に一同大いに啓蒙されたらしい。膳先生はまた倉橋先生に「益々保育を研究され、日本保育界に新生命を吹き込んで、改善寄与して下さい」といわれ、先生の研究応援を惜しまれることなく、種々お世話をされたことも聞かされた。それからまた、主任先生方は「倉橋さんが」とか「倉橋さんなどが」とかいわれることもあって、先生を中心にしてそれぞれ研究をなされたらしく、私はそうした場所には出ないが、土産話によって理解し想像もした。

西区幼稚園の保姆たちは、倉橋先生から直接お話は聞かなかったが、いずれもこうした間接のお話によってご指導を受けたことと思う。また、西区全部の小学校に幼稚園が併設せられていることは、当時の他区に比べて一番の進歩だったと思う。

私はこの頃よく疲れるようになった。職員への心遣いが大きかった。五十を越した主任先生と、四十歳前後の次席と三席、四

席、五席は二十四、五歳から三十歳までで、末席の私は二十歳であった。年齢の差と生活経験の違いは、非常に私に気を使わせたのである。

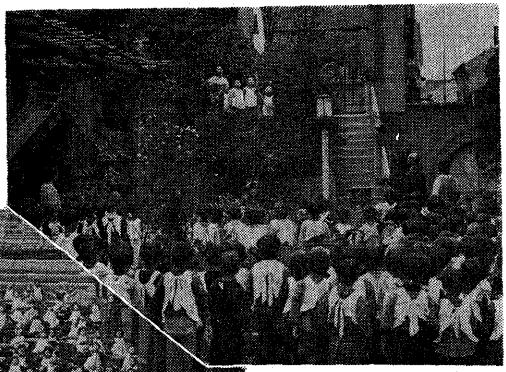
子どもの時『いろは歌留多』をして遊んでいる時、鑒といわば槌という句が出た時、「これは何の訳？」と父に尋ねたら、「鑒を使う時には槌が要るだろう、それだから鑒が要る時には、いわれなくても槌を揃えて持ってこいという意味で気をきかせと教えていることだよ」といった。これを覚えていて、何時の場合でも、誰に対する時でも、気をつけた。そうしたことがいつの間にか身について、気を配ったから誰とも争わなかったが、それだけに疲れたらしい。私が明日の保育準備を終えて職員室に戻ったら、上席の先生がまだ準備の最中で、然もその仕事の最中に無駄話に花を咲かせている状態を見ると、嫌な気になった。でも私は辛抱して手伝った。その頃師範学校卒業生で、幼稚園へ就職する人は附属幼稚園へ残る人か、家庭の事情で就職する人位だから、まして資格を口にする人の前では、なおさら私は行動に注意した。資格を心に抱いているようでは、保育はできない。心と心の問題ではなかろうか。

秋が過ぎ二学期も終わろうとするある時、両親に学校へ変わりたいといったら、直ぐ賛成しなかったが、私が事情を話したら、叶田さんと相談しようといい、我儘をよくいうといって叱られたけれど、数日の後にこの結果はわかった。それは、西六校から幼稚園に変わりたいという人があるから、中村が学校を希望しているなら、その人と交換してあげる、今は学年途中だから、来年三月まで幼稚園にいるようにといわれた。そうして学年末の三月には西六校への辞令を受けたので、やれやれ救われたと思った。と同時に以前お世話になった先生方に済まなく思ったが、それだけ一層働きましょうと決心した。かくて十六年を経た昭和七年四月に再び西六幼稚園主任保姆として、復帰したのであった。園長は青木前校園長から、今西校長に変わったが、今西先生は私が附属小学校時代の訓導であったから、どちらもよく知っていたので、今度の私の転勤の時には頑として、多くの運動者の中にあって、動くことなく先決されたのであった。

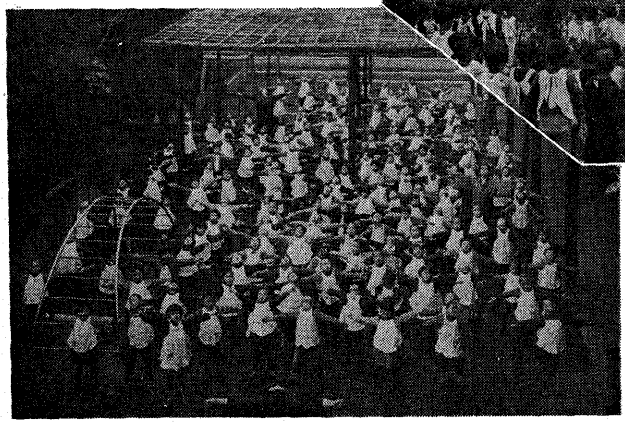
改築された後の幼稚園には、以前の姿はなく見違えるようだった。学校の一部が鉄筋になったから、その廃材の良質の部が全部幼稚園の改築に使用せられたからであった。

一階正面は広い大きな正門になり、その左右に広い応接室と小使室が設けられ、どれも従前の倍の広さで堂々たるものであった。コンクリート叩きの廊下を隔てて、小使室寄りに職員衛生室があり、斜面階段と廊下で間を取り、続いて二年保育室と積木室で、いずれも二十坪あった。階段は二か所できていて、一つは低い段階のもの、他は二つに折れた斜面のもので、いずれにも広い

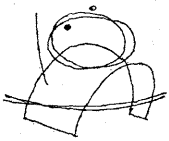
西六幼稚園の遊園



東部遊園における全園児のラジオ体操↓



↑西部遊園における国旗掲揚



踊り場を作っている。二階は全部保育室になっていたが、その中の一室を畳敷の特別室にしてあったが、何処も天井が高く、広さも二十坪はあった。室内は明るく軽快で気持が良い。二階の物入れは奥行四間もあって、広い棚には恩物が種々、積上げて幾筋にも並べてあった。

遊戯室を境にして東部と西部に広く遊園を設けている。西部は全部庭園で、その突当りに自然石を積み重ねて高い築山を作り、石の所々に躑躅(つつじ)や歯朶(しだ)類を植えて、自然の興を添えていた。問屋橋通りに作ったコンクリート壁の高さで、その上に三尺程の鉄の欄干をつけて、子どもが落ちないようにしてある。山には銀杏・樫・楓・青木・沈丁・山吹などを植え、手摺のある階段がコンクリートでで き、二間半程の長いトンネルがその下を通っていた。窓が二か所あって鉄の飾格子をはめていたから明かった。出口の上はすべり台で、二尺幅のもので三間程の長さを、心地よさそうに流れていた。

トンネルの入口の側に幼稚園の裏門があって、鉄の扉を閉めている。昔のコロロの出入口の面影はない。煉瓦の叩廊下は全部取りはらわれ、その跡に白ペンキ塗の一坪の温室や、半間隔って小動物飼育の金網の小屋ができていた。温室の前に一坪半程の花壇が二か所設けられ、四季折々の花を見ることができるだろう。

築山の石垣の前に二坪程の池があって、小さい緋鯉が泳いでい

る。すべり台が流れ切った端に蛇口の四個ついている手洗があって、その横に天神山が大きく改築されていた。宮の正面に階段を作り、他は全部コンクリートで二尺の高さに叩き、その中間より少し低く休憩用の腰掛ができて、かつて小さかった楠は広い影を山いっぱいに投げている。あの頃小さかった木々はそれぞれ大きくなって、築山や東部の目隠の土堤に分散され育っている。

遊戯室を通り抜けて、東部の遊園に出る。そこには子どもの大好きな砂場があって、ちょうど東部の遊園の突当りになる。正門から入って園内を見ると、この砂場に、改築後は太陽が当るようになった。応接室から砂場まで二十間の長さ隣家の防火壁の赤煉瓦の厳しい感じを消すために、壁に沿って目隠の植木を植えているのであるが、防火壁が高いため植木の足台とでもいうのか、前四尺後六尺の高さを持ち、幅も一間程の細長い矩形の箱の中に土を入れて斜面を持ち、植木を種々植込んでいた。銀杏も大きくなってここに植えられている。砂場の上の日覆は、二階の庇の高さに揃え、一間の廊下に平行して、積木室や二年保育室の前を通って廊下と斜面階段まで作られている。この棚にもかつて中庭に可愛らしい棚に寄っていた苗木が大きく育ったもので、甲州葡萄で収穫は多いらしく暗い感じを与えない。

以前は因循な感じであったが、改築後はいずれも大きく纏っている。青木園長の設計が、園の周囲に種々な施設を置き、それぞれが所を得て利用され、広闊な感じの園内で悠々と、自由遊戯を楽しむことができることは嬉しいことと思った。砂場の手洗の水は、植木の根本から湧いてくるように、子どもらは思うだろう。少し離して鉄製の四人乗りの吊ブランコを置き、応接室によった職員室の前に、長さ二間程のこれも鉄製の遊動円木が置いてあった。差し当り、東部の遊園は動的で、西部の遊園は静的の庭園というべきであろうか。私は青木前園長の設計や、今西現園長の転勤の時の好意に感謝すると共に、以前幼稚園転任のために骨を折って下さったことを思い出し、よく働こうと諸先生方にも感謝した。

明るく広闊とした園内で、子どもを相手によく働いた。身体が健康であったからたのしかった。前回は最年少であったが、今回は年長一人と、同年配かまたは年少者である。唯、年長者に、心安い府視学がいて、それを傘に着て、若い人たちに心安気に話すから、皆も遠慮していたそうで、前の主任保姆もこれには大分困っておられたと、前からいる小使さんもいっている。困ったことには「先生を要領使いになりなさるように、皆で仕込んで上げますわ」と、笑いながらいったことがあったが、私は黙って笑っていた。

看護当番は四季を通じて遊園で、子どもらと遊んで貰うように頼んだ。保育材料の調査も研究試作をすること、また保育案は週案にして、目的も書くようにして貰った。そして自由遊戯や談話の中でも、機会があれば比較・判断・数量・忍耐・心遣り・鼻拭

西六幼稚園における遊園　西部遊園の花壇（中央筆者）

き・爪切り・有難うなどの生活指導を、個人的にも、一般的にもすることに心掛けてほしいと願った。唯、それが鼻につかぬように務めてほしいと願った。

温室は棚を整理し、ベコニヤ、ゼラニウムなど十鉢並べ、三色菫やさぼてんの鉢植も貰ったから一緒に並べたら、美しい温室になった。鳥小屋には、矮雞一番を飼し、枯木を打着けて十姉妹も一番飼うことにした。

花壇には色とりどりの花が咲き、築山の山吹も平戸も咲いた。殊に嬉しいのは、山の端れの鉄柵に植えた蔓薔薇が、どここから長く蔓を出したので、柵の間を縫うように絡ませたから、チンドン屋が裏を通っても、子どもが覗かなくなったので安心した。その上この春からたくさんの花がついて、子どもらに与えても、なおたくさん残って、ままごとの御馳走や、お花見も出来た。そして石垣の間の霧島も咲き、歯朶も一層緑が深く、緋鯉も真鯉もよく泳ぎ、蛙も鳴くようになった。

この時分から際立って保育研究が盛んになって、全市五十有余の幼稚園を六研究区に分け、西区にある九施設は、大正区の一か所と第三区研究区になった。そしてこれらの研究区では毎月輪番で、研究発表と研究保育が行なわれるようになったが、この指導に当たられた教育部の先生などは、なかなか忙しかったらしい。

その頃、年長者だった人が、郡部の幼稚園へ主任保姆に栄転し

たので、その後任を物色していたが、ちょうど学校経験二年で、楽器練習を教師につき、市内勤務を希望している人があったから、尋ねたら幼稚園でも転勤すると聞いたから、園長に依頼して採用して貰った。

学校にいた人は、はじめは子どもの取扱いや、手技や表情遊戯の不馴れで、時々学校勤務を想い出すらしいこともあったから、私は自分のことを想い出して語り合い、早く馴れるように辛抱することをすすめた。続いてまた、結婚退職者があったことで、今度も師範二部卒業で、学校勤務二年経験の成績優秀の人を得た。自分は成績優秀ではなかったが、いつも成績優秀で性格の快活な人を選ぶように心がけた。資格の無い場合は、放課後通学に便宜を与えて規定通りの資格を得るよう援助した。互いに助け合って勉強し、合力で行きましょうと励まし合った。

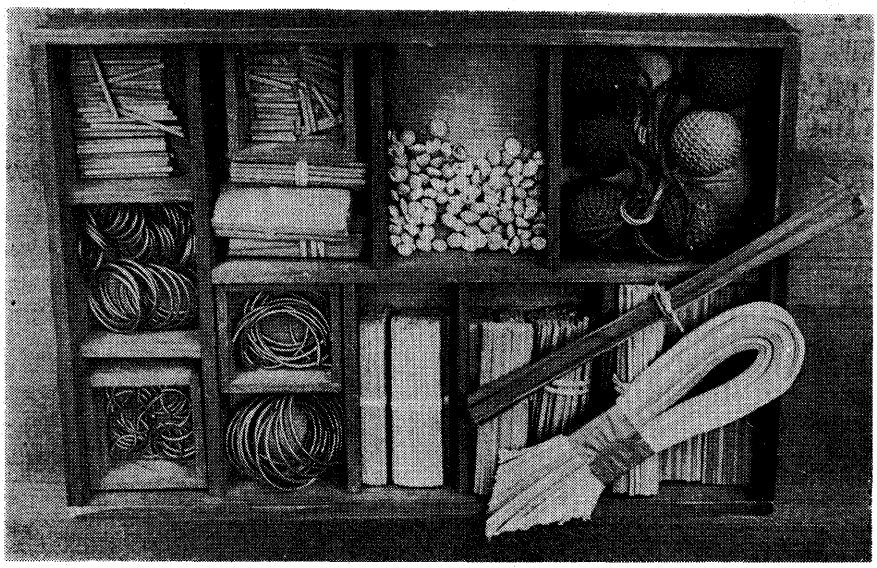
第三研究区における当番は、とうとう西六園にも回って来た。指を折れば、時期はどうやら九月の終りか十月頃になるので、研究発表と、実地保育の題材と、各担当者を、一同で決めて準備したのである。

研究発表は「本園における保育の自然物利用」で、実地保育は「紙芝居の赤ずきんちゃんの話と、リズム遊戯を併せて一年保育児を使用する」こととし、担当は師範卒業の新任の人に依頼して、夏季休暇を利用して想を錬った。十月には全園児に、遊園の葡萄を一房ずつ与えることができるのは、わが園の誇りであったから、研究発表の中で歌ったことが実演できるのを嬉しく思った。

研究会は盛大であった。これまでの発表会の人数を押して椅子を用意したが、予想しなかった程の参観者で、腰掛が不足した。園長の依頼にて、学校から男子の先生が二人手伝いに来て下され椅子も借り、研究発表の前に全部用意して下さったから、順序よく出来たので、研究会の時には皆着席して貰うことができた。指導課から五人来園されて批評を受けたが、散会後園長は、今日の批評は、批評よりも講評に価するもので、皆、よくやってくれたといって、喜んで下さった。私は盛会であったことは嬉しかったが、園長が喜んで下さったことを思い、かえって平素の骨折りに対しての、感謝の答ができたように思うと共に、各担任が熱心に仕事をして下さったと感謝し、併せて倉橋先生の御意見やその他のいろいろなお話を、かつて志方先生から伺ったことは私を養ってくれていたと思った。

その頃停年制異動も多かったが、それを期として女子園長の独立幼稚園も増した。これまで大阪市で愛珠幼稚園と御津幼稚園の二施設であったが、いつの間にか八施設になった。

西六は完全な独立園舎だから、次は西六だと噂も聞いたが、私は耳を傾けず、二階にある長押入に入って、誰も手をふれなかった雑物の整理に余念がなかった。西区の中でも早く創設せられた



恩物の一部・西六幼稚園の二階長押入れにあったもの。愛珠幼稚園に保管。

だけあって、恩物が数多くあった。新しいのも古いのも皆棚に積み重ねられている。積木は全部箱から出して、各組に分けてあったからここにはなかったが、板並べや、環、長短の竹繊、色あせた六球、など全部あった。私は珍しく思いながらそれらを区分して整理することができた。幸いに二年保育児の受持で助手を貰っていたから、午後から整理することができて、足の踏み場もなかった長押入も二週間後に、一目瞭然に整理できたので快々に思った。皆もきれいで使い易いといい、これからはこうした物も使って、遊ぶことも研究しようと話し合った。

この時分には、日支事変も大分進んでいた時だから、保育指導も時勢を考慮し、行事や生活指導、園外保育、誘導と設定保育の連携、等等を総合して保育細目を作製しようと、各人が手分けして研究し、それを総合して総合保育細目と題し、全市の発表会に私は当番の故を以て、発表させられたが、仕事なれば致し方ないとあきらめて、責任を果たした。

そしてこれに続いて五月の中頃、二千六百年を記念して、全市幼稚園連合遊戯会が開催されたが、全職員の遊戯の指揮に指命されて、その練習に愛珠幼稚園へ行った時、十八年ぶりに見るその時の愛珠に、何ともいえぬ淋しい薄暗い感じを受け、西六の方が明るくて元気があるように思い、嬉しく感じて、なにとぞいつまでも西六にいたいと思った。

（元愛珠幼稚園）